

編集後記

遊星人編集幹事の野津翔太です。今年も年に1度のアルマ望遠鏡 観測提案書の申請を終え、少し落ち着いた気持ちでこちらの編集後記を書いています。(遊星人2025年6月号 編集後記参照)

今回の遊星人、神野天里さん、所司歩夢さんの最優秀発表賞受賞論文では、スーパーコンピュータ「富岳」を用いた惑星形成の高解像度 N 体シミュレーション研究と、アルマ望遠鏡を用いた惑星形成が起きる原始惑星系円盤の高解像度観測研究について、それぞれの研究の鍵となる惑星移動過程やスパースモデリングを応用した超解像度画像解析法の説明も交え、詳しく紹介されています。そして、惑星物質固体物性測定コンソーシアム・国内水星研究コミュニティ・月科学コミュニティなど、日本惑星科学会会員が主体となった各分野の活動報告記事も掲載されています。遊星人ではこのような活動報告や国内外での研究会報告の記事なども随時募集しておりますので、引き続き奮っての投稿をお待ちしております。

また、節目の20本目の「遊星人の海外研究記」では、川島由依さんにオランダ・ユトレヒトでの研究生生活についてご紹介頂いております。私も川島さんと同

時期にオランダ・ライデンでポストドク研究員をしていた事もあり、ほぼ英語のみで生活できてしまいオランダ語が身に付かない事や、坂が全然なく自転車が活躍の生活である事など、個人的にも共感できるエピソードが多数掲載されていました。自分が書いた記事で恐縮ですが、ライデンでの生活について紹介した海外研究記の記事が遊星人2021年3月号に掲載されていますので、よろしければ併せてご覧いただき、オランダでの研究生生活・日常生活の興味深い側面に触れて頂ければ幸いです。因みにコロナ禍を経て1年ほど前に研究会のためライデンを再訪する機会があったのですが、駅に降り立ち感慨に耽る間も無く、毎日のように買い物をしていた馴染みのスーパーマーケットが入った駅前のビルが取り壊され跡形もなくなっているのを発見し、時の流れを感じ少し無常感を覚えたのも記憶に残っています。ただそのままライデンの街中に足を踏み入れ、変わらない運河沿いの街並みを目にし、定期的に通っていたパンネック (オランダ風パンケーキ) のお店を再訪いつものメニューを注文する頃には、懐かしさと安心感を覚えることができました。(編集幹事 野津翔太)